

・ 調査の概要

調査名	冬季走行速度調査
キーワード	モニタリング, 道路の信頼性
調査地域	島根県東部地域
調査期間	平成 17 年 1 月 24 日 ~ 2 月 24 日 (計 32 日間)
調査人数	15 名
調査主体	国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所
調査の特徴 ・ PP 利用の効果など	積雪時や雨天時の所要時間の信頼性や、損失時間を、区間評価ではなく、トリップ評価で行うことで、個々人が実感できる指標として提示することができた。 バスプローブによるデータ収集が困難な区間におけるデータ取得手法としての可能性が確認された。 「道路モニター」を活用することで、被験者確保の作業（費用）軽減が図られた。

背景と目的

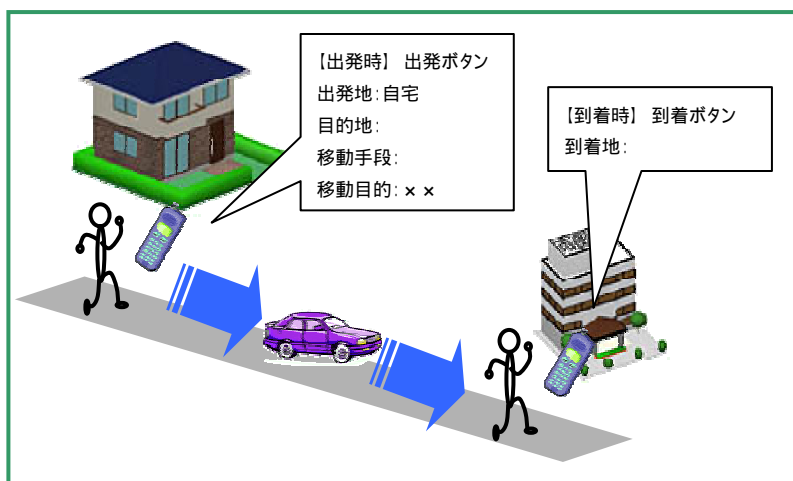
島根県東部地域においては、年間を通して雨が多く、冬季には多くの積雪があるなどの気象条件により、事故の多発や走行性の低下など問題が発生しているほか、東西・南北方向の主要幹線道路が国道 9 号、国道 5 4 号のみであり、災害・事故等による通行規制時や積雪時には大きな影響を与えているところである。

一方で、公共交通機関のサービス水準が低く、市街地部以外ではバスプローブによるデータ取得が困難など、多くの問題を抱えている。

そこで、本調査では、主として国道 9 号及び国道 5 4 号について、冬季積雪時等、悪天候時の道路走行実態から、冬季において道路サービスが著しく低下する箇所や程度、経済的な走行損失などの詳細を把握し、今後の道路整備にあたっての基礎データとして活用することを目的として、GPS 機能付きの携帯電話を活用した冬季走行速度調査を実施したものである。

調査手法とシステム

GPS 携帯を自動車に搭載し、車利用時のみ計測。



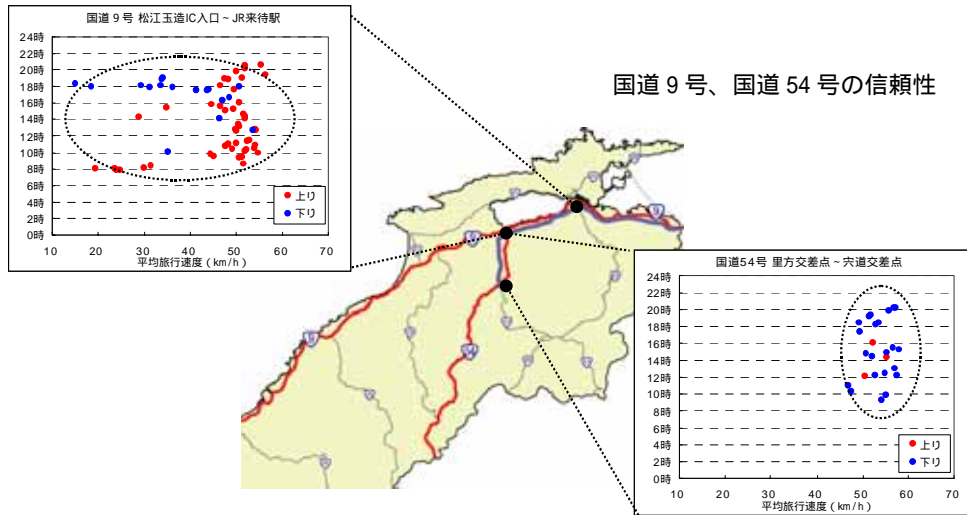
GPS 携帯搭載の様子



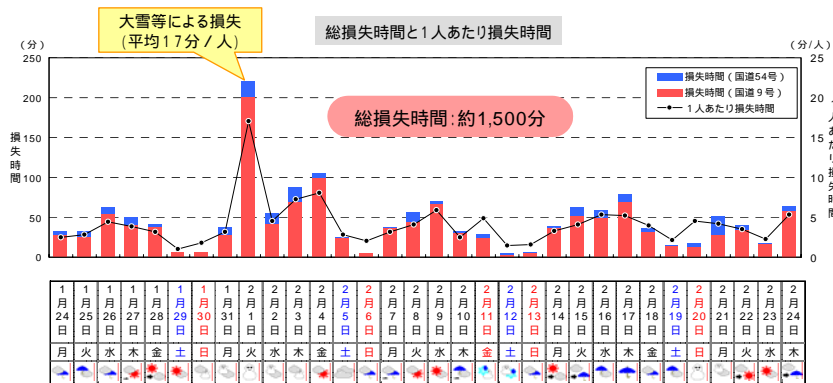
全体システムの概要

調査結果

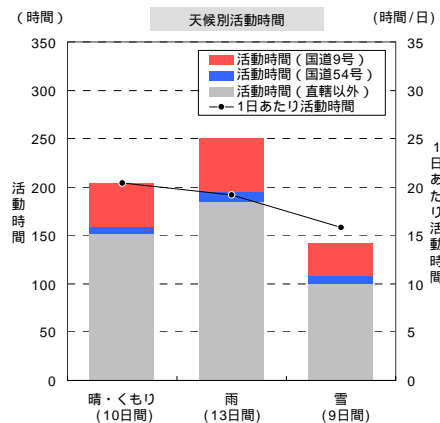
国道 54 号区間が時間帯の別によらず、ほぼ一定の旅行速度であるのに対し、国道 9 号では、朝・夕における旅行速度のばらつきが大。



大雪が発生した日においては、モニター 1 人あたり平均 17 分時間を損失。



雨天時において、晴天・くもり時に比べ自動車の活動(移動)時間が増加する一方で、積雪時には、大幅に減少。



約 8 割が「道路モニターの実態調査協力」に賛同。

道路モニターの協力による実態調査について

